

第16回かながわヴォーカルアンサンブルコンテストで部門別金賞受賞！



演奏後の記念写真～充実の表情で

3月9日（日）、富士通川崎合唱団 男声部隊は、神奈川県立音楽堂において開催された「第16回かながわヴォーカルアンサンブルコンテスト」（以下、KVEC）に出場しました。

このコンテストは、神奈川県合唱連盟・朝日新聞社が主催、2名以上20名以下の団体が、男声、女声、混声、ジュニア、シニアの5部門に分かれて競い合うものです。今回は全部門で計41団体が参加しました。3名の審査員による審査の評価点により、部門毎に金・銀・銅賞が決定し、金賞受賞団体のみ総合審査に進むことができます。私たちは男声部門で出場し、部門別審査で金賞を受賞、総合審査へ進出することができました。当団は、昨年同様、男声＋一部女声の有志のみ（団体名：富士通川崎合唱団 男声部隊）で参加しました。

【演奏内容】

■曲目：

《部門別審査曲目》

- 1) Sénsus（男声合唱とピアノのための組曲『Árbor Múndi』より） 作詞・作曲：佐藤 賢太郎
- 2) 作品第貳拾壹（男声合唱組曲『富士山』より） 作詩：草野心平 作曲：多田武彦

《総合審査曲目》

- 3) 吹雪の街を（男声合唱組曲『吹雪の街を』より） 作詩：伊藤 整 作曲：多田武彦

■指揮：加藤雅子

このコンテスト出演は、地域のイベントに参加し、地元の方々とふれあいながら日頃の練習の成果を競うという、意義のあるチャレンジのひとつと位置付けています。昨年に続き、KVECは東日本大震災の日の直前に開催されましたが、今年も被災した方々への想いを胸に歌いたいという有志により、男声部隊が成立しました。



ユニオンビルで最後の調整

当日は、まだ肌寒い季節ではありましたが、幸いにも天候に恵まれ、各団員良いコンディションで迎えることができました。練習場所である武蔵小杉のユニオンビルに集合し、最終調整を含む最後の練習に精を出し、会場へ向かいました。



直前のリハーサル



当日のプログラム

部門別審査の演奏1曲目、佐藤賢太郎の「Sensus」は難しい曲ですが、発音および発声をストイックに練習したおかげで綺麗なスタートを切ることができました。2曲目、多田武彦の「作品第貳拾壹（宇宙線富士）」は、序盤で力が入ったのか乱れてしまう場面がありましたが、後半は練習通り落ち着いて演奏できました。

結果、当団は金賞を受賞し、総合審査へと駒を進めることになりました！ 昨年、男声部門は出場した全団体が賞を取れず辛酸を嘗める結果でしたが、その悔しさから一年間、地に足をつけ練習してきた努力が報われた瞬間でした。

総合審査で演奏した「吹雪の街を」は、長年準備を続けてきた曲です。総合審査に進むことができた喜びもあり、全員が伸び伸びと歌うことができました。



表彰式



金賞に喜びの渡辺副団長

総合審査では、進出した10団体中8位。しかし、部門別審査でトップの金賞を受賞できたことは、非常にうれしく、誇らしいことです。これを自信につなげ、来年度はさらに演奏技術に磨きをかけるとともに、聴衆のみなさんや審査員を惹きつけることができる合唱団になるために精進して参ります。

このステージをもって、当団の今年度の行事はすべて終了しました。来年度も、川崎工場春まつりのミニコンサートを皮切りに、様々なステージを予定しています。応援をよろしくお願いいたします。

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団（テナー）木山敦之】